



信州伝統野菜の「松代青大きうり」初採り記念写真
☆若手有機農家さん「みのる農園」の白澤さんです。松代でたった一人この種を守り続けていた亡き原田さんの思いと共に受け継いで栽培をしてくれています。

7/21「台所未来セミナー」開催！「お出汁を知ろう」をテーマに、添加物や遺伝子組換えについてお伝えし、「買い物は投票だ」という意識を持つことと、消費者のできる事を皆さんで情報共有しました



7/13,14「松代祇園祭」カネマツ駐車場にて子供向けに箱獅子作りのワークショップを初開催！大好評でした☆歩行者天国の道路では、子供達がパクンパクン鳴らしながら元気に箱獅子を振っていました♪20年後の彼らが楽しみです^^「箱獅子キット」ご希望ありましたらお問い合わせください☆

「やっぱり野菜だった！」

6月のとある平日でしたが、
久保田さんの畑である、長野市中央の「まごころあひ農園」の大豆の種まきに参加させていただきました。
棚田の一角。うねにして10本くらいまいてでしょうか？2区画。小規模だから出来ること。
先日の農業の国際シンポジウムで、例えば、大豆、麦、とうもろこしを1つの畑で育てたら、それぞれにつく虫が益虫になって農薬はいらぬという話を聞きました。久保田さんの畑はまさにその環境。いろんな虫。食べにくる鳥たち。工場のような大きな（虫）ないから、多種多様な生物が共存できる！自宅への帰途、まち中の家庭菜園が無機質な空間に感じました。次回は草取りに！一度、畑にお邪魔すると愛着が増えました。（野菜愛）みなさんも、機会があればぜひ！（め）

「歴史と食」を学ぶ

-土用の丑の日-

7月と言えば”土用の丑の日”を思い出す人も多いのではないかと。「土用」とは、立春・立夏・立秋・立冬直前の約18日間を示す言葉で、夏だけをさすわけではない。

江戸時代、松代藩士が書いた随想録『片岡志道見聞録』には、藩士が鰻を養殖（飼って）していた記事がある。「東条の大日堂の堤（東条大日池）で鰻、鮒を飼い始めたのは、文政の末（1829年頃）で、増田孫兵衛・小林市治等が最初に飼い始め、今（明治初期）も続いている」とある。残念ながらその方法や、かば焼きにして食べたのか？などは不明だが、鰻が江戸時代から松代で飼われていたとは驚きで、少し動揺（土用）します。

真田宝物館 学芸員 降幡浩樹

「8月のイベント・催物」

- 8/4:PowerSpot(皆神山で音楽イベント♪)
- 8/21:薬膳講座(夏から秋に向けての養生)
- 8/28:心の講座
- 8/28:お砂糖を使わないお料理教室
- 8/31:カネマツ「NiceTimeMarket♪」